全国へ夢を運ぶ、くまもとのカスミソウ。

——生産地泗水町を訪ねて

わが家の小六と小四の娘は、今「花ことば」に夢中。小さな手帳にいくつもの花の名とことばが書かれています。サクラソウ＝希望、ユリ＝純潔・優美、チューリップ＝思いやり、そして、カスミソウ＝清らかな心——ういういしい少女を想わせる可憐な花、カスミソウ。熊本では年間に約二千万本を生産し、その生産額は質の良さとともに「日本一」となっています。

以前は煙草や野菜をつくり、キクなどを細々と栽培していたというここ泗水町にも、わずか二年の間で、三ヘクタールの畑にカスミソウが植えられ、三千五百万円の収益を生み出すようになりました。

畑のカスミソウには、もう一つの表情がありました。

ひとつのビニールハウスの中には、四百本のカスミソウが咲き乱れ、甘い香りが充満しています。「カスミソウに香り？」と思われる方もあるかもしれませんが、切って新しいものはよく香るし、ひとつひとつはかすかでも、これだけあると……。カスミソウの白い海の中に漂っていると、その香りに酔ってしまいそう。なかにぽつんとピンクのカスミソウも育っています。名前は「レッドシー……赤い海」というのだそうです。そこだけが朝焼けの茜色の海。

カスミソウは、暑さと水に弱いのだそうです。植物を育てるのに、勿論水は必要なのですが、花が咲いてから、根のまわりに水分があると、ダメになってしまうということでした。水をやったり、水はけをよくしたりと大変なことでしょう。暑さを避けるためビニールハウスの風通しを考えたり、一年中出荷するため冬場は灯油をたいたりと、御苦労は尽きないことと思います。でも夫婦そろって、かわいらしい花を生産・出荷するのは、清純な花嫁さんを育てているみたい。そういえば、タレントのSさんのウエディングヴェールに、カスミソウが飾られていましたが、あれもここで育ったものではないかしら。

バイオ技術を生かした美しい花づくりもすすんでいます。

昨今バイオブームですが、カスミソウについても、優良系統の苗の生長点を切りとって培養、病菌に侵されていないコピー苗を大量に作る「メリクロン（茎頂培養）技術」が応用されています。現在はその苗を種苗会社から買っていますが、菊池市農協では独自の量産・実用化の努力が行われています。そうなると、苗の値段が十五分の一にもダウンするそうですから、生産者にも消費者にもうれしいことになりそうです。

県立農大花きコース
バイオ授業風景

ママさん特派員
福島 美和子さん

先日の新聞で、県立農業大学校の今年の女子新入生が過去五年間で最高という記事を読みました。「バイオによる品種改良」を志望動機にあげ、その半数が花きコースを選択しているとのこと。女の子の将来なりたいものとして、「幼稚園の先生」と「お花屋さん」が多いと聞きます。花に囲まれていたいという願望が、「バイオできれいな花をたくさん作る人」という道へ広がっていくのは素敵なことです。

冬場には、全国の市場を独占することもあるそうです。

ところで、かつては午前三時までに熊本市の花き市場に出すため、生産者の非常な御苦労があったと聞きました。しかし、現在のカスミソウ出荷に関しては農協共販を行い、組織力を活用しています。午前九時までに農協に集められたカスミソウは、県経済連の手を借りて、熊本空港や福岡空港から、同一市場に重複することのないよう配慮されて全国へ送られていきます。90cm×30cm×30cmぐらいの箱にLの長さのカスミソウが60本も入っているとお聞きしてびっくりしました。箱から出すと、フンワリと大きくなるのです。重量も軽いし、空輸するにはもってこいの産物です。

カスミソウは札幌から沖縄まで62市場に出荷されています。全国市場で占めるシェアは、年平均で40%、11～12月の他地域からの出荷の少ない時期には70%～100%にものぼるそうです。ということは、クリスマスやお正月にテレビでみかけるカスミソウは、ほとんどが熊本産ということになります。

生産者ご自身によるフラワーデザインの勉強会もありました。

また、部会ではフラワーデザイン講習会を開き、生産者自らがフラワーアレンジやコサージュ作りを勉強しておられます。「使ってみなければ、その良さはわからない」という発想から始められ、今まで「花なんか」といっていた農家のおとうさんも、楽しく花と戯れていらっしゃるそうです。その発展した形が、先頃菊池市で開催されたフラワーカーニバルでしょう。プロではなく、生産者や県事務所の所長さんや課長さんまでが、花を生けられたとお聞きしました。そんな中で、カスミソウは単独でも美しく、他のひきたて役としても抜群で、あとはドライフラワーにしてもよい、といい事づくめの花だと評価をうけています。

母の日には、全国でくまもとのカスミソウが優しさを広げてくれたことでしょう。

カスミソウは、優しく自己主張する花です。時は五月、カスミソウの最盛期。母の日には、熊本産のカスミソウが、赤やピンクのカーネーションをとり囲み、全国のお母さんの胸に抱かれたことでしょう。